

開催趣旨

—重イオンビーム育種米「あきたこまちRは有機農業と相容れるのか—

今、IFOAM(国際有機農業運動連盟)が有機農業の原則を日本と世界に問うています。

「あきたこまちR」は、

- 放射線育種か、遺伝子組み換えか
- なぜ有機JAS認証の対象なのか
- なぜ表示を「あきたこまち」に統一するのか
- 日本のコメ輸出全体に不利益をもたらさないか
- そして、有機農業は、未来世代を守る「予防原則」を置き去りにしていないか

IFOAMは昨年11月に農水省、農研機構、秋田県などの関係当局に「書簡」を送り、有機農業の原則に不適合と懸念を表明しました。そして、3か月後、ようやく農水省から「回答」が届きました。この「書簡」と「回答」をもとに、IFOAMと農水省等が直接話し合う場ができたのです。海外からも20か国以上の参加が予定されています。

秋田県産米「あきたこまちR」は、重イオンビームを用いた放射線育種によって開発された「低カドミウム米」として、すでに日本国内で生産・流通が始まっています。現在、秋田県産の「あきたこまち」は、ほぼ「あきたこまちR」に置き換わりつつあります。

本品種をめぐっては、その開発手法や社会的影響について、国内でさまざまな疑問や懸念が指摘されてきましたが、関係当局との間で、十分な協議や相互理解が深められてきたとは言い難い状況が続いています。

こうした中、国際有機農業運動連盟 (IFOAM – Organics International) は、2025年11月25日、農林水産省、農研機構、秋田県など関係当局に対し、「あきたこまちR」をめぐり安全性・リスク評価の考え方、表示のあり方、有機認証制度 (JAS) との整合性などについて、国際的観点から強い懸念を示す「書簡」を送付しました。

この書簡は、国際社会で共有されている有機農業の原則や制度設計と、日本国内の対応との間に、看過できない隔たりが存在することを示しています。

そして、3か月後の3月13日、ようやく「回答」が届きました。

本会合は、このIFOAM書簡の内容を中心に、日本と国際社会の間にある認識や制度設計の相違点を整理し、まず対話による問題解決の土台を築くことを目的とします。

あわせて、有機農業の原則、消費者の選択権、市場の透明性、国際的整合性、日本のコメ輸出市場への影響など、「あきたこまちR」をめぐり課題を多角的に共有します。

参加方法

●事前登録

下記、Peatixのアドレスよりお申込みください。

<https://ifoam-japan0326.peatix.com>

または、主催のIFOAMジャパンのウェブサイトでもご案内しております。

●参加費：無料

(別途、任意の寄付 一口1,000円をご案内します)

●アーカイブ配信：この「国際対話」は、後日編集し、アーカイブ配信の予定です。

対象は一口1,000円程度のご寄付をさせていただいた方とさせていただきます。

銀行口座：三菱UFJ銀行 恵比寿支店 普通 1336528
口座名：特定非営利活動法人 アイフォーム・ジャパン

事前質問

●今回はパネルディスカッションです。時間の制限がございますので、参加者の直接の発言、質疑応答は予定しておりません。



お問合せ：IFOAMジャパン
理事長 徳江倫明
事務局長 伊能まゆ
公式サイト：<https://ifoam-japan.org/>

協賛ご寄付をお願いします

この国際対話の企画の趣旨に協賛いただき、情報共有・周知・参加にご協力いただける団体・グループを、広く募集します。参加申し込み同様に、Peatixのアドレスよりお申込みください。

※協賛団体としてお願いしたいこと 〈協賛金のお願い〉

・本企画の趣旨にご賛同いただき、運営協賛金のご協力をお願いいたします。

※1口10,000円 (何口でも)

※協賛団体としてお願いしたいこと (広報協力)

・本企画の趣旨への賛同表明と団体内・関係者への開催情報の共有・周知

協賛団体の対象

・有機農業・環境保全型農業に関わる団体・グループ / 種子、食料、流通、消費者問題に関わる団体 / 研究者・専門家ネットワーク、市民団体 / ・本テーマに関心をもつ関連分野の団体 など。

協賛団体のご紹介

ご賛同いただいた団体名は、開催要項・ウェブサイト・配布資料等に掲載予定です。

掲載方法 (正式名称・掲載順等) は主催者に一任いただきます。

・協賛表明の方法：オンラインフォームは後日、主催のIFOAMジャパンのウェブサイトにてご案内します。

※詳細は、主催者 (NPO法人 IFOAMジャパン) より順次ご案内します。<https://ifoam-japan.org/>